

導入事例

Case Study



個人所有の携帯電話から会社の業務用携帯電話へ変更し、グループウェア「Desknet's」との組み合わせで営業の業務効率化を実現

陸上競技場などの運動施設建設整備業で、全国展開している法人は珍しい。長谷川体育施設株式会社さまは、体育施設づくりのエキスパートとして、半世紀にわたり、日本のスポーツ・レジャーの発展に貢献してきました。2008年から業務用携帯電話を導入し、外出先から利用できるグループウェアDesknet'sを導入したことで、営業の業務効率を高めることに成功しました。

課題と効果



長谷川体育施設株式会社
総務部 情報システム 係長
引地 信夫 さま

- 課題** ・個人所有の携帯電話を業務用で使用していたので、毎月総務へ提出するための請求明細書を確認し業務使用した金額をチェックする作業負担を軽減したかった
- ・営業は外出しているとき、社内のパソコンに届いたメールを確認できなかった。会社に戻ってからのメール確認と対応を改善したかった
- 効果** ・ソフトバンクモバイルの携帯電話を会社で一括契約したことにより、営業担当や経理担当者の業務負担が軽減した
- ・携帯電話とDesknet'sの組み合わせで、グループウェア上の情報閲覧やスケジュール確認がどこでも行えるようになり業務効率が向上した

導入の背景 ●●●●●▶ 社内の業務効率を向上させるため新たなシステム導入を検討

長谷川体育施設株式会社さまは1949年2月の設立以来、陸上競技場を中心に野球場やサッカー場などのスポーツ施設のほかに、学校のグラウンド、レクリエーション施設を含む、さまざまな土木・造園施設などの建設を専門に全国展開しています。

建設会社は、工事の完成後に審査を受けて問題がなければ、顧客へ物件を引き渡してすべてが完了します。しかし同社が工事を受注する施設は、完成後に施設を使うスポーツ選手からの評価が非常に重要になっています。なぜなら、実際に施設を使った選手からグラウンドの状況や施設の使いやすさの話が出てくるからです。

同社は、自治体や学校法人などから工事を受注しますが、完成してからが本当の仕事になるといいます。それは日本陸上競技連盟の公認を維持するための、定期的な改修工事が出てくるためです。

技術系社員や外出する機会が多い営業担当者は、個人の携帯電話を業務用で使用していました。携帯電話事業者から届いた通話明細書から業務に使用した電話番号を抜き出し、利用代金が記載された通話明細書を総務担当者へ手渡していました。総務担当者はその明細書に基づき、携帯電話使用者の個人金融機関口座へ、振込みを行っていました。

「営業や総務・技術系担当者の業務効率を上げるために、使用した代金分を毎月、会社に請求する非効率なやり方を変える必要があると思いました。個人の携帯電話を業務用として使用することで、個人情報の漏えい事故につながるリスクもありましたので、2008年に約200台のソフトバンクの携帯電話を導入しました」と語るのは、総務部 情報システム 係長の引地信夫さまです。

業務用携帯電話を導入した2008年には、社内のネットワークインフラも大きく変更したといえます。本社で一括管理していくために、他のグループウェアと約6カ月比較検討し、全社一斉にネオジャパンのグループウェア「Desknet's」を導入しました。全23機能の画面が統一されてより見やすく、利用者がストレスなく利用できるインターフェースが実現されています。それにコストが安いことも導入した理由でした。

導入の内容…………… ソフトバンクモバイル携帯電話とDesknet'sの組み合わせで業務効率を向上

現在、全社の業務用として携帯電話211台、データ通信カード60台、スマートフォンを2台利用しています。個人用携帯電話を使用していたときは、上限を1万円として使用した携帯電話料金を、使った分だけ利用者が総務担当者へ請求していました。「一部の社員は、上限枠1万円を超過した電話代金を自分で負担していました。業務用携帯電話になったことで、お客さまと時間を気にせず納得がいくまで商談ができるので満足していると思います。手間がかかる毎月の携帯電話利用料金の精算処理をしないだけでも、業務効率は向上しました」(引地さま)。

導入後の費用は、1台あたりおよそ7000円が発生しています。精算処理の手間が減ったことや、総務担当者の伝票入力、金融機関への振り込みといった工程を考えれば運用が楽になりました。費用対効果は、金額に換算できないものがあります。その業務処理を行っていた担当者は、ほかの仕事ができてプラスになりました。

携帯電話の料金プランは、「ホワイトプラン」*1や、ソフトバンク以外への通話が多い携帯電話は「W ホワイト」*2を契約し、それぞれの使い方に応じた設定をしています。

固定回線も本社を含めた全支店でソフトバンクテレコムの「おとくライン」とし、固定電話から発信するコストを抑えているとのことです。さらに、社内の固定電話へ発信が多い携帯電話は、おとくラインへの国内通話が24時間無料になる「ホワイトライン24」の契約をし、コスト削減につなげているそうです。請求書の処理は、携帯電話料金と固定電話料金を別々に処理していたのですが、株式会社インボイスの通話料金一括サービスを利用することで総務担当者の業務効率化を図りました。

ソフトバンクの法人基本パック(月額使用料498円/回線)に含まれる、安心遠隔ロック機能を使用することで、携帯電話を紛失したときのセキュリティを高めることができました。携帯電話を紛失しても、管理者のパソコンから即座に対象の携帯電話の操作が一切できないように遠隔操作でロックができます。その機能を活用し、紛失や盗難時に情報漏えいを防ぐことが可能になりました。

携帯電話とDesknet'sの組み合わせで、外出する社員の業務効率を高めることに成功しました。多くの機能の中でメールとスケジュールを活用しています。メールは外出先から確認でき、緊急性がある場合は、その場所からお客さまへ電話対応しているので安心とのことです。「新しいシステムの導入後、社員が慣れるまでに時間がかかると思っていたのですが、1年も経過せずに社員が当たり前のようスケジュール入力できるようになり、全社の情報共有が可能になりました」(引地さま)

*1 料金プラン ホワイトプラン

基本使用料	国内通話料		
	ソフトバンク携帯電話・ディズニーモバイル携帯電話宛		左記以外
	1時～21時	21時～1時	終日
980円/月	無料	21円/30秒	21円/30秒

*2 通話料割引サービス Wホワイト

定額料	国内通話料		
	ソフトバンク携帯電話・ディズニーモバイル携帯電話宛		左記以外
	1時～21時	21時～1時	終日
ホワイトプランにプラス 980円/月	無料	10.5円/30秒	10.5円/30秒

今後の展開…………… スマートフォンの導入を視野に入れて、さまざまな活用方法に期待

携帯電話とDesknet'sの組み合わせで業務効率は向上しました。営業の携帯電話70台は、パケット放題に加入し、業務効率化を図るためのメール確認や、情報収集を積極的に行っています。以前は個人の携帯電話だったのでパケット代金を気にしていた社員もいました。

今後、携帯電話の機種変更をするうえで、3G携帯電話からスマートフォンへの切り替えも検討しています。営業は、会社に戻ってから受注伝票を起票していましたが、外出先からでも受注伝票処理ができるようなシステムを検討しているといえます。

勤怠報告は社員が手書きで入力し、総務担当者が報告書を見ながらパソコンに入力する作業をしています。スマートフォンで入力可能になれば、総務担当者はパソコンに届いた勤怠報告実績を確認するだけになりますので、無駄な業務処理を省くことが可能です。

「スマートフォンは、必要に応じたアプリケーションを入れ、カスタマイズすることができます。ディスプレイ上のアプリは、機能のイメージが直感的に分かりますので、誰が使用しても問題ないと思えました。さらに、業務効率を向上させる

ために、新しい取り組みをしていきます。タブレット型携帯端末による大きな画面で、お客さまへプレゼンテーションすることも検討しています」と引地さま。

長谷川体育施設さまには、業界最大手として事業展開していくうえで、強みがあるそうです。それは、半世紀にわたり培ってきた技術の伝承や高い品質の工事を施工することで、維持メンテナンスの費用を安くできることです。今後はそうした技術を売り込んでいくそうです。競技スポーツからレジャースポーツまで、あらゆる人が安全で快適にスポーツを楽しむ多目的運動場や、児童・生徒が安全にのびのびと走れる学校グラウンド。人々の健康と地域のふれあいを大切にした総合コミュニティエリアとしての施設づくりをしていきます。



同社施工による川崎市等々力陸上競技場(川崎フロンターレのホームスタジアム)

長谷川体育施設株式会社

所在地：東京都世田谷区太子堂1-14-21

従業員数：約200名(2011年8月)

概要：陸上競技場や野球場、ラグビー場、テニスコートなどの運動施設建設整備業。

URL：<http://www.hasetai.com>

※パンフレット記載内容は2011年9月現在のものです。